

「i-Filter@Cloud GIGA スクール版」機能要件仕様

■ 全般

1. Web フィルタリングソフト、もしくは Web フィルタリングサービスであること。
2. 国内で開発・販売されている製品で、日本語によるサポート対応が可能であること。
3. 日本 PTA 全国協議会推薦の製品であること。
4. ホームページの改竄やマルウェア感染の疑いのあるお客様へ通知する無償サービスを提供していること。
5. 情報セキュリティや IT マナーなどの情報教育の支援機能を有すること。
6. 情報教育の支援機能には、定期的に問題が見直されるサンプル問題が付随していること。
7. 社内通達や法令遵守啓発等の告知をブラウザ上に表示するインフォメーション機能を有すること。
8. 全国の小中高生が活用している学習コンテンツが学年・教科ごとに分類された学習用動画ポータルサイト機能を有していること。また、学習コンテンツをプレイリストに作成のうえ児童・生徒に配信し、生徒のタブレット活用の促進・教職員の授業支援が可能な機能を有すること。
更には、YouTube などの動画サイトをブロックする運用をしても、配信された動画は簡単に閲覧できること。
9. ユーザーのセキュリティ課題に応じ、フィルタリングメーカーの専任講師による「情報リテラシー授業」の支援提供サービスをメーカーとして提供可能なこと。
10. YouTube 動画を動画 ID、チャンネル ID、ハンドル名を入力することで簡潔に制御設定が可能なこと。また、チャンネル ID を登録することでそのチャンネル内の動画 ID を自動取得する機能を有していること。
11. YouTube 限定公開動画について、自 Google アカウントで管理するチャンネル内の動画 ID の取得が可能なこと。
12. より業務や学習に集中できるように YouTube 動画の娯楽的なコンテンツのサムネイルを非表示にすることができ、サムネイル上での自動再生を防ぐことができること。
13. ユーザーが自殺サイトなどにアクセスした際にいち早く対応できるよう、フィルター機能及び管理者へのメール通知機能がついていること。
14. 児童生徒が検索した単語や POST した単語などもテンプレートにて自由に設定追加でき（いじめ、DV など）、通知メールに記載する項目のカスタマイズ、同じブロック単語や同じ児童・生徒からのメールをまとめることができること。
15. 生成 AI サービスカテゴリでの生成 AI サービス一括制御と併せて、個別の生成 AI サービスごとの許可/ブロック設定も組み合わせて設定できること。

■ 外部攻撃対策

1. 安全性が確認されている Web サイトへのみアクセスを許可し、未登録サイトへのアクセスをブロックすることが可能な DB を搭載していること
2. 安全性が確認されている Web サイトへのアクセスのみを許可した場合に業務に影響なく利用できる仕組みを標準搭載していること
3. インストール直後、初期設定にてデータベースに未登録の Web サイト・脅威情報サイト・改ざんサイトへのアクセスがそれぞれ専用のカテゴリにおいてブロックされる状態で提供されること

■ 出口対策

1. フィルタリングのデータベースが 1 営業日に最低 4 回は更新されること。
2. 出口対策用のデータベースを有し、以下の内容が含まれていること。
 - ・世界中のハニーポットや独自の探索システムで収集した実際のマルウェア挙動に基づいた情報
 - ・国内の企業、官公庁、公共団体などで「実際に確認された」マルウェアによるアクセス先情報
 - ・国内 1,000 台以上の監視センサー(FW/UTM など)のログを元に相関分析された情報
 - ・専任のセキュリティアナリストによって分析精査された情報
 - ・メーカー独自に収集した、改ざんが行なわれている脆弱な Web サイトの IP アドレス/URL リスト
 - ・上記の IP アドレス/URL リストの情報は「改ざんサイト」カテゴリとして明示的に DB に登録・反映される

■ その他外部攻撃対策

1. 脅威情報への通信が発生した際に、管理者にメール通知が可能なこと。
2. 脅威情報以外に、IT 不正技術カテゴリなど、メール通知したいカテゴリを設定できること。
3. 脅威情報サイトにアクセスしたクライアント端末をインターネットから隔離し、管理者へメール通知が可能なこと。

■ 内部漏えい対策

1. Web サイトへのデータ送信(POST)規制ができること。
2. データ送信(POST)規制は、「パスワード解除」「警告のみ」「監視」と併用して設定が可能なこと。

■ 生成 AI サービスの利用制御・可視化

1. Web サービスにて生成 AI のサービス毎の制御ができること。
2. 指定したドメイン・アカウント以外の生成 AI へのログインを制御することが可能なこと。
3. 生成 AI の「サービス毎のアクセス状況」「利用ユーザー上位 10 名」「ブロックユーザー上位 10 名」「ブロック単語上位 10 個」が管理画面上でデフォルト表示されること。
4. 生成 AI サービスへのアクセス時に、生成 AI ツール利用時の注意事項・ガイドラインを表示し、ルールの周知が可能なこと。
5. 生成 AI アクセス時の警告画面の内容やブロックが推奨される単語について、独自のテンプレートがあること。
6. 生成 AI サービスへの「質問内容」のログを取得できること。
7. ブロックメッセージ通知が出せること

■ Web フィルタリング機能

1. Web サービスを機能ごと・組織ごとに制御する機能を有し、Web サービスごとの「ログイン、書き込み、アップロード」等操作ごとに制御でき、それらの設定は同一の管理画面上のボタン 1 つで簡潔に実施できること。
2. Web サービスにログイン後のページもカテゴリ判定が可能なこと。

3. Web サービスが取得している認証を表示し、ISMAP 等の国内認証を含めて取得認証ごとに表示・絞り込み検索・制御が可能なこと。
4. 管理者画面の二段階認証を行うことで不正ログイン防止を強化できること。
5. GoogleWorkspace/Microsoft365/Box/AWS/LINEforBusiness/Dropbox/Slack/Webex/Apple/OpenAI ChatGPT/Microsoft アカウントにおいて、個人アカウント・テナントの利用を制御できること。
6. FQDN だけでなく下位のページの URL でもフィルタリングが可能であり、ログに残ること。
7. セーフサーチ(検索エンジンによる検索結果制御機能)の強制的な設定が可能であること。
8. セーフサーチの対象サイトが DB 配信され、対象サイトの仕様変更があった場合でも、製品をバージョンアップすることなく継続的に強制化が可能であること。
9. メーカーが推奨するフィルタリング設定のテンプレートが用意されていること。
10. 「小学校」向けのテンプレートが低学年と高学年で分かれていること。
11. 日本の組織に応じたグループ・ユーザー管理ができそれを基にフィルタリグールの設定ができること。
12. ACL でのフィルタリングルールの設定ができること。

■ ブロック画面

1. ブロック画面をカスタマイズできること。

■ SSL デコード

1. SSL(HTTPS)通信を解析・制御可能であること。

■ ログ・レポート(利用状況可視化)

1. 収集ログをレポート表示する機能が無償で付属されていること。
2. 「端末の利用状況を可視化する」機能が提供され、別途ソフトウェアをインストールせずとも、同一の管理画面上でユーザーのインターネット利用状況の詳細な可視化・分析が可能なこと。

※以下項目が表示可能なこと

ユーザーのインターネットの利用有無、早朝/午前/午後/学校外/深夜ごとの利用人数、グループ別のインターネット利用率の分布、利用時間単位の利用人数分布、Web サービスごとの利用人数、ユーザー及びグループごとの詳細なアクセス分析

■ ユーザー管理

1. Google Workspace、又は Entra ID のユーザー・グループ情報を同期できること。
2. グループごとに有効期間が指定でき、特定日以降フィルタリング開始とするグループ事前設定や、テンポラリのグループ作成が可能なこと。
3. フィルタリングの設定は、利用時間帯や曜日(祝祭日含む)、任意の期間(長期休暇やテスト期間等)ごとに設定できること。
4. 特定の授業時にフィルタリング強度を変更し、授業で必要なサイトについては各学校の判断で、一定期間フィルタリング

の設定変更ができること。

5. ブロックされたサイトについてユーザーが先生アカウントに公開を申請し、承認されるとサイトの閲覧が可能なこと。また、公開申請可能なフィルタリングカテゴリーを管理者が指定できること。
6. ユーザーの Web 利用の合計時間を制限できること。

■ 独立した第三者機関による認証

1. ISO27001 の認証を取得していること。
2. ISO27017 の認証を取得していること。

以上